

会 議 録

会議の名称	平成 29 年度第 1 回茨木市環境審議会地球温暖化対策推進部会
開催日時	平成 29 年 8 月 25 日 (金) (午前・午後) 10 時 00 分 開会 (午前・午後) 11 時 45 分 閉会
開催場所	市役所本館 6 階 第 1 会議室
議 長	玉井 昌宏 (大阪産業大学工学部都市創造工学科 教授)
出席者	天保 好博、三上 雅弘、三輪 信哉
欠席者	久米 辰雄
事務局職員	松山環境政策課長、伊藤推進係長、嶋職員
開催形態	公開
議題 (案件)	(1) 平成 28 年度地球温暖化対策実行計画の進捗状況について (2) その他 (事務局より報告)
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・名簿 ・平成 28 年度の進捗状況について・・・資料 1 ・平成 28 年度いばらきエコプラットホームのまとめ・・・資料 2 ・COOL CHOICE CHALLENGE チラシ・・・資料 3 ・いばらき環境ポイントチラシ・・・資料 4

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
部会長	<p><開会> 事務局より挨拶</p> <p>本日は傍聴者がいますので入室をお願いする。会議次第に沿って進めていく。今回は事務局からの報告が主となっている。では、事務局から説明をお願いする。</p>
部会長	<p><議題> (1)平成28年度地球温暖化対策実行計画の進捗状況について事務局から説明</p> <p>以上について、1ページから6ページまでで意見や指摘はないか。</p>
A委員	<p>茨木市民1人あたりの温室効果ガス排出量が6.02t-CO₂/年・人、国民1人あたりの排出量が9.5t-CO₂/年・人と大きく差が出ているが、茨木が特殊なまちなのか、もしくは茨木市の算出方法がおかしいのかと数値の信憑性にも関わると思うがこれはなにか理由などあるのか。</p>
B委員	<p>大阪の数値は分からないのか。大阪と北海道ではおそらく数値が違うと思う。大阪の数値が分かれば茨木がよいのか悪いのか分かると思う。</p>
C委員	<p>茨木は生産活動が低く産業部門のウエイトが違うため、このような数字になるのではないか。今出たような他市との比較は分かりやすいだろうし、大阪市や北摂の似た市と比較することはよいと思う。</p>
事務局	<p>大阪や近隣の数値を確認する。</p>
B委員	<p>資源エネルギー庁のデータの算出方法が変更されたことについて、温室効果ガス排出量の削減目標は、変更後のデータによる1990年度の数値を基準として、そこから20%削減、70%削減ということになるのか。</p>
事務局	<p>今後も新しい算出方法でしか数値を出せないため、変更後のデータによる1990年度の数値を基準としたい。</p>
部会長	<p>今までの経年変化のグラフは他の年度も全部データを変更したものを載せられるのか。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	こちらで数値を把握しているものが2011年以降で、今回過去5年分を掲載しているが、2010年度のもの新しい数値を出せない。ひとつの案として、変更後の1990年度と2011年度以降のものだけ掲載する方法も考えている。
部会長	専門の方が見ればわかると思うが、旧データと新データが混ざったグラフは一般の方には分かりにくい。全部新データのグラフにした方がよいのではないか。
C委員	既に出ている報告書もあるため、1990年度の基準値がこれまでの値と変わっていることについて、資源エネルギー庁の基礎データの算出方法に変更があったといったコメントは必要。
事務局	変更後の1990年度と2011年度以降のグラフを掲載し、過去の数値を変更していることを記載する。
部会長	2ページの「目指すまちのすがた」は2020年度の中期目標となっているが、中期目標だけを書くということになっていたのか。産業部門の単位あたりの排出量が増えているのは出荷額の減少だけではなく、計算の仕方が変わって増えていることも原因のひとつだと思う。
事務局	「目指すまちのすがた」には中間目標と長期目標の両方を記載する
A委員	2ページの「排出量を削減するには活動量を減らすことが大切です」と提案されても戸惑うのではないか。3ページの産業部門の消費量が半分になっているということはどこから読み取ればよいのか。
事務局	2ページの文言は誤解のないように修正する。産業部門の消費量は3ページのグラフから読み取れる。1990年度は約50GJだったが、2014年度は約25GJになっている。
C委員	人口や製造品出荷額の変化を一覧にはできないか。2ページの目指すまちのすがた「削減されています」は誤解を招くので「削減します」などの表現にしてはどうか。4ページにコメントがあると市民が読んだときに分かりやすいのではないか。
事務局	一覧表を作成し、表現についても改める。
B委員	中間目標と長期目標の間に年度ごとなどの細かな目標はないのか。進捗管理するにはもっと細かな目標があった方がよいのではないか。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
部会長	国の排出量も原発の使用状況などで数値が毎年変動するので、何年分かの平均で達成状況を把握している。細かな目標を立てるとするのは難しいと思う。
C委員	他市では、長期目標の70%削減を維持したほうがよいのか議論がなされている。20%削減達成までは秒読み段階になってきているが、残り50%をどうするのか議論が必要になってくる。
事務局	計画を改定するときの参考にしたい。
部会長	続いて7ページ以降についてご意見等あるか。
B委員	環境フェア来場者6,000人のうち何人が環境を意識して何かをやっているといったことは把握していないのか。環境フェアに来たことで意識付けや行動にどれくらい繋がったか分かれば環境フェアの効果も分かるのでそういったものがあれば教えてほしい。
事務局	来場者にアンケートはとっているが、そこまでは把握していない。
C委員	せっかくイベントを開くのであれば、どのくらい結果に結びついたか把握できた方がよい。
事務局	アンケートの内容は環境フェアの中身が中心になっているので、環境フェアに来て、今後何かしますかといった啓発効果についての項目も追加するなど、アンケートの内容についても考えたい。
部会長	再生可能エネルギー等導入件数はどのように把握しているのか。
事務局	関西電力に照会している。
C委員	再生可能エネルギー等導入件数にはFITで設置した件数だけがデータとして挙がっていると思うが、企業では住宅の屋根貸し事業への参入が進みそう。そうするとFITを利用せず直に広まっていき、データとして挙がる件数はもっと減る。何件の家に太陽光が載っているかをデータに出来るのが一番よい。
部会長	住宅用太陽光発電システム設置補助事業は300件の導入に対して206件補助したということか。施策の効果のようなものは明らかにならないか。補助事業を行なっているから導入に繋がったなどは分からないか。市が実施

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	している事業でこういう風に伸びているというのと、単に書いているだけとは意味が違ってくる。
事務局	補助金によって導入を促進したことでこのくらいの CO ₂ が減ったということとはわかる。
部会長	省エネ・省 CO2 設備導入補助事業はグラフとは関係ないものか。
事務局	省エネ・省 CO2 設備導入補助事業には太陽光発電システムの設置も対象に含まれているが、平成 28 年度は太陽光の導入はなかったため、再生可能エネルギー等導入件数のグラフには含まれていない。平成 27 年度は太陽光発電システムの設置もあったので平成 27 年度の 430 件の中には含まれている。
A 委員	環境フェアと農業祭の同日開催は両方に出ている者としては片方にしか出られなくなる。参加者が増えるという狙いだと思うが、11 月は市の行事が多いので行事の少ない月に開催したほうが注目されるのではないか。1 年の中に色々な行事がばらけて、意識を啓発するタイミングがいくつもあったほうがよいのではないか。
事務局	過去には 6 月や 10 月に開催していたが、昨年からは農業祭と同日に開催している。内部でも、どの開催時期が適切なのか検討する必要がある。
B 委員	鉄道・バスの利用状況について、駅前の駐輪場が足りていないと感じる。鉄道の利用者数をもっと伸ばすなら、そういった整備をした方がよいのではないか。
C 委員	総合的な交通政策で道路体系の見直しや駐輪場の整備を交通部局に言い続けるなど努力してほしい。
事務局	担当部局の意向も確認したい。
B 委員	資源循環課から、市内でのスーパーの袋を有料にするという話を聞いた。ビニールごみの大半がビニール袋だと思うので、早くに導入したほうがよい。
事務局	資源循環課では北摂 7 市で調整しているようだが、少し時間がかかるかもしれない。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
A委員	グラフには在籍自動車台数しか出ていないが、茨木の環境を考えると流通センターが稼動すればかなりのCO ₂ が増え、市内の環境負荷という点では大きくなる。茨木の北部には流通センターができていますが、流通センターのCO ₂ 排出量は反映させられないのか。ネット通販というひとつのライフスタイルの変化だと思うが、それに対してどういった提案ができるのか。
部会長	市としてはどのように関与しているのか。施策としては後押ししている形なのか。
事務局	市内に事業者が来てくれるのはありがたいことではある。万代やプロロジスとは公害防止協定を結んでおり、無駄な車の運転やアイドリングストップなど強制力はないが協力はお願いしている。施設数が増えれば車の台数は当然増えていくので抑制は難しいと思う。
B委員	EV・PHVの充電設備16か所は市の所有のものか。
事務局	市の所有ではなく、市内に16か所あるということである。
C委員	水素ステーションは16か所の中に入っていないのか。
事務局	水素ステーションは市内に2か所あるが、EV・PHV充電設備数の16か所には含まれていない
部会長	LEDの導入はW数で表すことはできないか。3,000件といわれてもどのような効果があるのかわかりにくい。
C委員	LEDに変えて家庭何戸分減ったなど知りたい。
事務局	確認して数字があれば表記する。
部会長	11ページの環境家計簿普及促進事業の文章は、「講座内容を環境家計簿を中心に上げるよう見直した」という書き方に変えたほうが分かりやすいのではないか。9ページの自動車分担率や中心部の歩行者・自転車通行量は一般の人が見て、歩行者が増えて自転車が減ったと考えてよいデータではないと思うが、載せる必要はあるのか。
C委員	一般の方にはよくなったかどうかわかるような総評があればわかりやすい。施策があるから状況が変わる部分と施策がなくても市民の意識が高まってきて変わる部分と二種類あると思うので、施策を考えていく上でもそ

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	の対応関係を考える必要がある。特に削減量を 20%から 70%まで引き上げる場合には、具体的に考えていかなければならない。
B 委員	活動指標のこの分に関しては基本的に 20%削減できる、ここの部分についてはこれだけというものがあれば何をすればよいのかが分かるのではないか。例えば、ごみの量がこれだけ減ったのでこれくらい CO ₂ が減ったとか、車の稼働率が下がったのでこうなったなどが分かればそちらのほうが分かりやすい。これをこうすれば減ると分かれば取り組んでもらえる。もっと身近なもので、こんなことをしたおかげでこうなったということが出てくれば総評としては分かりやすいのではないか。
A 委員	「4. 環境負荷が小さいまちづくりが進んでいるまち」はあえてひとつの項目にする必要があるのか。1～3 全て環境負荷が小さいまちづくりに繋がっている。ひとつの項目を立てている割に施策も少ない。
事務局	項目は計画策定時に決めているものなので削除することはできない。
A 委員	他に事業を考えたほうがいいのか。朝市は確かに地産地消だが、それが環境負荷が小さいまちづくりと言われるとバランスが悪い。
事務局	その項目にはスマートコミュニティが入る予定だった。計画の中にも具体的に低炭素まちづくりの誘導の中に大規模工場跡地における次世代まちづくりと書いていた。
部会長	再掲になっているのはなぜかと思う。2にも4にも同じグラフが載っていて、分ける必要があるのかという印象。
事務局	計画の中の評価指標の例でも当時はなくて棒線になっている。
部会長	続いて、その他の資料について事務局より説明をお願いします。
	(2) 「平成 28 年度エコプラットホームのまとめ」、「COOL CHOICE CHALLENGE」、「いばらき環境ポイント」について説明
部会長	何かご意見等あるか。
部会長	エコプラットホームというのは実行計画を進めていく上での、実行部隊のようなイメージか。以前は発表会のようなものをされていたが、昨年度はエコポイントについて注力しているのか。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	そうである。
部会長	部会としてはこちらからも意見を言ってもよいということか。
事務局	ぜひご意見いただきたい。
C委員	COOL CHOICE CHALLENGE はいつ頃アナウンスして、今どれくらい応募があるのか。
事務局	エコポイントと同じ日の5/21 からで、応募は30 くらいある。
C委員	市民の皆さんにとってはこういったことを市がやっているというのはなかなか知りにくいけどどのように周知しているのか。
事務局	広報誌・ホームページ・フェイスブックが中心で、講座の参加者にはちらしを渡している。
C委員	先生によってはクラス全員で考えてみるなどがあるので、小学校に配ると取り組んでもらえるのではないかと。
A委員	ちらしの応募例についてだが、割り箸は林業から見ると本来はエコである。今となつては中国から輸入するようになって日本の割り箸業者も廃れてしまったが、間伐材の利用方法として、割り箸をつくることは収入源にもなり、森を育成するために大事な活動であった。
C委員	マイコップやマイボトルのほうが例としてはよいのではないかと。割り箸が環境によいか悪いかで言うと、中国の木が伐採されていることが問題であり、マイはしは観点が複雑である。
事務局	来年度の参考にする。
C委員	エコポイントの去年の応募数は分かるか。
事務局	応募件数は10 ポイント、20 ポイント、30 ポイント合計で760 件であった。重複もあるので500 人程度の方は10 ポイントは貯まるような行動をしてもらっている。
B委員	何人くらいがポイントカードを持っているのか。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	配布枚数を正確に捕らえているわけではないが、約 3,800 枚配布している。
B 委員	3,800 枚くらい配っている内、760 人くらいがポイントを貯めて持ってきてくれているということか。知らない人もまだまだいるのでは。
事務局	1 年目なのでまだまだ周知できていないというのは実感としてある。設置場所なども増やしたい。
C 委員	小学校・中学校・高校・大学に配って、ポイントを集めることを夏休みの宿題にしてはどうか。
事務局	子どもが動くときも親も動くので、子ども対象の景品なども用意できればと検討している。景品を予算で購入していてどうしても限界があるので、今年度から市内事業所に協賛という形で景品を提供いただけたら、市の予算を子ども向けの景品に使うこともできるかなと思っている。色々な人を対象にできるようにということは考えているところである。
C 委員	エコポイントは環境省の補助を受けて行なっているのか。
事務局	エコポイント自体ではないが、COOLCHOICE 事業として補助金をもらっている。環境フェアも COOLCHOICE を全面に押し出したものにしていて補助金の対象になっている。昨年度と今年度の分は補助金を出していただくような形になっている。
部会長	他に何か意見等はあるか。無いようなのでこれで閉会する。 <閉会>